

# 市議会だより

『秋号』Vol.29

三郷市議会議員

えい いずみ

## 加藤 英泉

所属会派：21世紀クラブ



笑顔あふれる  
ふるさと三郷

皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。これまでの経験と新たな発想で議会活動に真摯に取り組んで参りますので、ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。目指すは『笑顔あふれるふるさと三郷』。住み続けたいま

ちに、さらに前進。

■議会所属委員会

- ①議会運営委員会
- ②三郷中央地区周辺対策特別委員会
- ③文教経済常任委員会
- ④三郷インターチェンジ周辺対策特別委員会委員長

## 《令和4年(2022)9月 定例議会報告》

会期:8月29日～9月15日

●6月議会は報告23件、議案21件でした。主だった議案は本庁舎空調設備改修工事(その1)請負契約締結(3億3143万円)、希望の郷交流センター(&北児童館)の指定管理者に三郷市社会福祉

協議会。

●一般質問で令和5年4月から18歳までの医療費無償化を答弁。(※木津市長の選挙対策)

### 一般質問(9月14日)を行いました

ホームページにおいては一般質問及びその答弁を全文掲載しています。

#### ① 保育問題

#### (1)「みさと市幼児教室 風の子園」の閉園について

風の子園の成り立ちと経過については、昭和48年(1973年)みさと団地の入居が開始されたのに伴い、子どもに遊び友達がほしいと願った母親たちが「3歳児の仲間づくり」と名付けて呼びかけをしたのが幼児教室の始まりで、その後、幼稚園不足によりできた「4・5歳児の子供会」などと合流し、市に要望を重ねた結果、みさと団地内に市が公団より「土地」を借り「建物」を提供し昭和50年4月に第一幼児教室の園舎が完成しました。

その年に入園希望者が殺到し、入園できなかった80数名の父母が第二幼児教室の開設運動を始め、多くの方々の支援と協力で、その結果、昭和51年(1976年)5月にみさと団地内に園舎が完成し、第二幼児教室を

開設。

この間、昭和51年1月には、当時の市長、教育長、自治会長、公団、保護者の話し合いの結果、「公設民営」の構想が生まれ、自主運営の形態が市長はじめ参加者により確認されました。平成4年(1992年)1月、第二幼児教室が園舎老朽化のため、現在のさつき平の地に三郷市が新園舎を建設し、移転しました。

平成12年(2000年)4月、幼児教室を取り巻く環境の変化を考慮し、子どものためを考えた保育を三郷の地に残していくために、第一幼児教室と第二幼児教室風の子園は「みさと市幼児教室風の子園」として一つになりました。そして、卒園児も2361名を数え、現在に至っているわけですが、建てか

えや移転することなく令和7年度末（令和8年3月末）をもって理不尽にも閉園に追い込まれようとしています。・・・そこで、

#### **ア. 特徴的な幼児教室を閉園する理由について**

子どもを取り巻く環境も大きく変化し、その様々な変化を感じる中で、子どもたちのことを常に考え、子どもたちの園生活を見守り、子ども一人ひとりがのびのびと個性豊かに成長するよう、それぞれの伸びる力を信じ、大切にし、1年中裸足で、開放的な遊びを通して生活・自然体験を豊かにし、自分で考え行動できる子どもに育つことを目指し、「待つ保育」が実践されています。このように、50年近く続き、画一的でない、他にはない多様性を先行く特徴ある幼児教室を敢えて閉園に追い込む理由はどこにあるのかお伺いいたします。

#### **イ. 他保育施設からの入園希望者や入園拒否された子どもの受け入れ先について**

風の子園は、子育てにおいて、孤立しがちな保護者にとっても、預けてお任せの画一的な保育施設でなく、保育者も保護者もすべて幼児教室の会員になり、子どもを真ん中に保育者と保護者が協力して共に育て合う環境になっており、その為、保護者の選択と風の子園に入園を希望する子どもも多く、また、心身に障がいがあったり、その疑いのある子どもは他の施設では保育場所が隔離される傾向があり、その以前に、入園・入所受付けや受け入れを拒否されたりすることがありますが、風の子園ではそれを受け入れ、差別なくほかの子どもたちと一緒に保育され、役目もしっかり果たしています。風の子園がなくなった場合、市内外の施設で入園・入所を断られた子どもたちの受け入れについてどのようにお考えか伺います。

#### **ウ. 長寿命化計画に基づく園舎の改修を行わない理由及び建替えについて**

市の建物等は耐震と長寿命化計画に基づいて工事が行われておりますが、風の子園は公設民営ではありますが、それらの計画がありません。安心・安全を標榜する三郷市です。少子化の中、大事な子どもを収容する建物の市としての修繕計画がないのは何故なのか、また、修繕計画がないのであれば建替えをお

考えなのかお伺いします。

#### **エ. 風の子園の移転建設について**

瑞木小学校の西側にある当初は消防署建設用地とされていて、諸般の事情で当地における消防署の建設は行われず、現在も空き地となっておりますが、風の子園の閉園が老朽化によるものということであれば、ここに風の子園の移転を考えても良いのではないかと思います。お伺いいたします。

**生涯学習部長答弁** みさと市幼児教室風の子園は、昭和50年代の人口急増期に幼稚園待機児童解消のため、公立幼稚園設置まで暫定的に設置された公設民営の「幼稚園類似施設」でございます。施設用地と建物を市が提供し、保護者を中心とした組織体制で47年間、運営が行われております。風の子園の幼児教育では、どろんこ遊びや水遊びなど、自然と関わる豊かな経験を大切にしており、この幼児教育を子どもたちに受けさせたいと考える保護者から一定のニーズがあることは認識しております。

風の子園における運営上の課題といたしましては、具体的には、危機管理マニュアルの策定や、保護者が短期間ごとに園の代表・副代表を務める運営体制の改善、組織の法人化などの検討してまいりました。

また、令和元年頃から市と風の子園は、開設当時から変化している社会情勢や園舎の老朽化、自主運営の可能性やNPO法人化など将来の運営のあり方を話し合ってきました。併せて、幼児教育・保育無償化対象施設への移行に向けても、様々な課題や解決への手法について協議してきたところでございます。

このような話し合いを進めている中、市の方針として閉園を決定したのではなく、風の子園の代表から令和3年10月13日に開催された臨時総会において、令和7年度末で閉園するとの決議がなされた旨の報告が、文書にて三郷市教育委員会教育長宛にございました。

**所見再質問** 風の子園の閉園について私の質問に答えていませんが、今後の展開次第では後日、再度質問をすることがあると思います。答弁のなかで、「市の方針として閉園を決定したのではなく、風の子園側より閉園する旨の報告があった」ということでした。

風の子園に確認しましたら、そういう報告をしたことは間違いないが、閉園は全く本意ではなく、翻意を促されてそうってしまったということが正直なところだということです。

その経緯について、市と園舎の老朽化や運営のあり方等について協議している中で、老朽化については、大和ハウス工業の見積りで、「修繕すると3,500万円かかる、建替えだと2億5千万円かかるが金がないのでできない」といわれ、このあまりにも高い金額には、父兄の中に建設関係の方がおられ、「高すぎるので知り合いの会社に見積りを頼もうか」と言ったら、「見積りを取らないでくれ」。或いは、「風の子園に市税を投入するのに市民の理解が得られないとか、得られるかどうか判らない」、「議員には頼らないで」、「それでは、署名運動をして市長に要望したらどうか」と言ったら、それも「止めてくれ」。園児の募集については、「令和7年度末で閉園になると、新規に募集しても3年保育の中で2歳児は卒園できなくなるが、残りの1年については転園等に風の子園は責任持てるのか」などと言われ、これもだめ、あれもダメで、当時、どこにも相談しようがなく、追い詰められてやむを得なく昨年10月に閉園の決議をし、報告をしてしまったということです。

これは、女性だけの職場だけに、子どもたちのことを考えると怖くなってしまったということです。私は市の職員とこの件で話し合い中に大きな声を出したとかで、議長より咎められましたが、これらはもっとひどいことで職員によるイジメじゃありませんか。

課題であった運営体制については、1年交代だった園の代表は複数年制になり、法人化についてもNPOを選択肢に、近々に改めて臨時総会を開催し、継続して運営をしていく旨を市の方に報告するとのことですが、公設

民営を基軸に他の保育施設よりも多様性を発揮した運営で、園児やご家族・父兄にとっても掛け替えのない施設であり、他の保育施設よりも1日でも長く残さなければならない三郷市が誇れる特徴ある保育施設であります。三郷市の子育ての評判のためにも、閉園することなく、大修繕、建て替え、もしくは移転について要望させていただきます。最後にお聞きしますが、風の子園がなぜ閉園しなきゃならないのかとお聞きしましたら、「近年の少子化でその役目が終わったから」という発言がありましたが、その発言の真意はどこにあるのかお聞きします。

**生涯学習部長答弁(再)** 風の子園の幼児教育が特定の保護者から一定のニーズがあることは認識しています。ただ、設置当初の行政目的である「待機児童の解消」の手段としての役割は果たしたと捉えており、行政目的がなくなった今、建替えや移転等に対し市が多額の財政投資を行うことに対しては、慎重に判断したいと考えております。今後も引き続き風の子園へ今後の方向性については共に検討をしてみたいと考えております。

**所感** 「設置当初の行政目的は待機児童の解消の手段であった」とは全く話題にない嫌みの苦肉の答弁。言うに事欠き「行政目的がなくなった」というが、風の子園の需要は旺盛なほどあり、これは恥ずかしいほどの認識不足です。また、多額の財政投資はできないようなことをいうが、特徴あるもの、良いもの、魅力に投資し、それを更に伸ばしていくことで流山市のような発展がある。(しらゆり保育園をはじめ多額すぎる財政投入は羨ましいがため疑惑の目が注がれている。)三郷市は人口が減少に転じていることを役所は意識すべきであり、風の子園は閉園ありきでなく、必要性を認識し再考を促したい。

## ② 困窮者支援問題

日本の子どもの13.5%、7人に1人が貧困であると言われております。厚労省の調査では、一人親世帯の平均所得は305万円と夫婦で子どもを育てる家庭の745万円の半分以下で、その子どもの6割は「毎日の食事が給食だけ、晩ご飯をいつも一人で食べている、経済的な理

由で修学旅行にも行けない、部活動に参加できない、塾に通えず進学のコツが狭められてしまう」など、当たり前と思われる生活が営めない厳しい状況に置かれています。

その困窮者支援策として、

## (1).フードパントリーについて

子ども食堂がスタートして暫く経ちますが、その子ども食堂に「本当に来てほしい子どもたちがあまり来ない」という現実が浮き彫りになりました。「貧しい子どもと見られたくないという誤解があるのではないか」ということが窺え、それでは「場所を決めて、食品を取りに来て貰えば来やすいのではないか」ということで、子ども食堂や学習支援等の子どもの居場所づくりに取り組む団体などが中心となって、住民の身近な地域に「食品の配布場所を設置し、ひとり親家庭や生活困窮者など、生活に困っている人を対象に食品を無料で配布する活動」としてフードパントリーが始まり、地域で課題のある対象世帯と顔の見える関係で繋がることで「困窮世帯の自立を支援」することを目的としています。そこで、**ア. みさと子育て応援フードパントリーの課題と要望について**

当初、「みさときっず食堂」を立ち上げ、暫く運営をしてきておりましたが、コロナの感染拡大を機に「みさと子育て応援フードパントリー」と名付け、フードパントリーに舵を切りましたが、①不定期ではあるが、平日の日中に食品等の寄贈品の引き取りが多く、運営協力団体に引き取りを分散し依頼をしているものの人手不足で大きな負担となっていること、②開催日前日など、食品等の仕分けや袋詰めにも人手不足で大きな負担となっていること、③食品の取扱量拡大に伴う保管場所や保管用倉庫の確保の必要性、④食品を運搬するための車両等の賃借料やガソリン代の負

担増があり、⑤冷凍や生鮮食品の保管のための冷凍及び冷蔵庫の確保の必要性、⑥光熱費や人件費、配送費などの固定費等、経費面の課題があり、市民の善意と努力への依存だけでは、持続可能性に大きな問題となっています。このため、フードパントリーを運営する活動団体の事業継続を図ることを目的に、「備品購入費、報償費、使用料又は賃借料、食材費、光熱水費等の需用費、保険料、通信費、運搬費等の役務費」が各自治体から補助され始めており、北区では補助金の上限額90万円、足立区では上限額50万円の交付や冷蔵庫・冷凍庫の購入補助金の上限額10万円の交付をしています。三郷市においては、「子どもの居場所づくり」推進事業として今年度、報償費（謝礼）12万円を含む136,000円の予算。時は子ども食堂からフードパントリーに。三郷市においても、事業継続を図るために、喫緊の課題であります「フードパントリー支援補助金等」の給付を要望させていただきます。

**子ども未来部長答弁** 令和2年度には、「子どもの居場所」運営団体に対し、補助金による助成を行った経緯がございます。今後も引き続き、活動団体の多様性や地域の主体性を尊重しながら、運営団体と連携を図り、より良い運営が行えるよう対話を重ね、活動支援に努めてまいります。

**所感** 運営面の費用である需用費や役務費などの補助を要望しているが、答弁が噛み合っていない。念押ししていたのだが残念。

## コロナ禍終息を お祈りします。

### 加藤英泉後援会



HP <https://eiizumi.com/>  
E-mail [ktt@ceres.ocn.ne.jp](mailto:ktt@ceres.ocn.ne.jp)

〒341-0024 三郷市三郷2-1-9

TEL 048-957-0962 FAX 048-957-0966



元三郷市医師会 会長  
さつき内科  
青木しげお(医学博士)

先生も幼児教室風の子園の存続をプッシュ。  
また、市政のムダ・ムラをなくす行財政改革に意欲。